

初版作成日 : 2009年01月20日

改訂日 : 2024年06月20日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : セラビューレTSつや消し 各色

製品番号 (SDS NO) : 9949033Z000-5

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 建築用塗料

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : スズカファイン株式会社

住所 : 三重県四日市市塩浜町1番地

担当部署 : 研究開発本部

電話番号 : 059-346-1116

FAX : 059-346-4585

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

発がん性:区分 1A

特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分 2

(注) 記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

発がんのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

指定された個人用保護具を使用すること。

応急措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。

貯蔵

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化管法 管理番号	化審法番号
酸化チタン(IV)	<10	13463-67-7	-	1-558
酸化第二鉄	<5.0	1309-37-1	-	1-357
2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート	<5.0	25265-77-4	-	-
水酸化鉄(III)	<5.0	20344-49-4	-	1-1073
C.I. ピグメントブルー 15	<5.0	147-14-8	-	5-3299
カーボンブラック	<2.0	1333-86-4	-	-
エチレングリコール	<1.0	107-21-1	-	2-230
エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル	0.3	111-76-2	管理番号594	7-97; 2-407; 2-2424
エタノール	<1.0	64-17-5	-	2-202
アンモニア水	0.1	1336-21-6	-	1-314

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。成分の含有量について企業秘密であるものは範囲で記載。
労働安全衛生法・化学物質管理促進(PRTR)法該当成分については、「15.適用法令」を参照下さい。

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が困難な場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。
溶剤、シンナーを使用してはならない。
皮膚に付着した場合:多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
直ちに医師に連絡する。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。
眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

嘔吐物を飲み込ませてはならない。
医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。
負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
適切な換気を確保する。

医師に対する特別な注意事項

緊急の特別処置などを講ずる。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。
この製品自体は燃焼しない。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

周辺火災に対応して、消火活動を行うこと。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切な保護具を着用する。

作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。

二次災害の防止策

回収物の廃棄方法については、専門家の指示を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避データなし

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

(避けるべき保管条件)

日光から遮断すること。

安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度及び濃度基準値

(エチレングリコール)

濃度基準値 TWA: 10ppm;

STEL: 50ppm

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

作業環境評価基準 25ppm

許容濃度

(酸化チタン(IV))

日本産衛学会(2022) 1.5mg/m³ (吸入性粉塵); 2mg/m³ (総粉塵)

(酸化第二鉄)

日本産衛学会(第2種粉塵) (吸入性粉塵) 1mg/m³; (総粉塵) 4mg/m³

(カーボンブラック)

日本産衛学会(第2種粉塵) (吸入性粉塵) 1mg/m³; (総粉塵) 4mg/m³

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

日本産衛学会(2017) (最大許容濃度) 20ppm; 97mg/m³ (皮)

(酸化チタン(IV))

ACGIH(2021) TWA: 2.5mg/m³(R) (下気道刺激; じん肺症)

(酸化第二鉄)

ACGIH(2006) TWA: 5mg/m³(R) (じん肺症)

(カーボンブラック)

ACGIH(2011) TWA: 3mg/m³(I) (気管支炎)

(エチレングリコール)

ACGIH(2017) TWA: 25ppm(V);

STEL: 50ppm (V), 10mg/m³(I,H) (上気道刺激)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

ACGIH(2003) TWA: 20ppm (眼及び上気道刺激)

(エタノール)

ACGIH(2009) STEL: 1000ppm (上気道刺激)

(アンモニア水)

ACGIH(1976) TWA: 25ppm;

STEL: 35ppm (眼損傷、上気道刺激)

ばく露防止

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：各色

臭い：僅かアクリル臭

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点データなし

自然発火点データなし

分解温度データなし

pH：8.0-9.5

動粘性率データなし

溶解度：

水に対する溶解度データなし

溶媒に対する溶解度データなし

溶媒の溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

蒸気密度データなし

密度及び/又は相対密度：1.0-1.3g/cm³

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

安定である。

危険有害反応可能性

危険有害反応可能性データなし

避けるべき条件

避けるべき条件データなし

混触危険物質

混触危険物質データなし

危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物データなし

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[成分データ]

(酸化チタン(IV))

rat LD50 >5000mg/kg (SIDS, 2015)

(酸化第二鉄)

rat LD50 >10000mg/kg (HSDB, Access on July 2019)

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

rat LD50>3200mg/kg (SIDS, 2002); 6517mg/kg (SIDS, 2002; PATTY 6th, 2012)

(C.I. ピグメントブルー 15)

rat LD50>10000mg/kg (SIDS, 2002)

(エチレングリコール)

rat LD50=6140mg/kg (PATTY 6th, 2012)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

rat LD50=470mg/kg, 917mg/kg (環境省リスク評価第6巻, 2008)

(アンモニア水)

rat LD50=350mg/kg (SIDS, 2008)

急性毒性(経皮)

[成分データ]

(酸化チタン(IV))

hamster LD50>10000mg/kg (HSDB, Access on May 2016)

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

rabbit LD50>15200mg/kg (SIDS, 2002; PATTY 6th, 2012) et al.

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

rabbit LD50=220mg/kg (ATSDR, 1998)

急性毒性(吸入)

[成分データ]

(酸化チタン(IV))

dust: rat LC50 >5.09mg/L (SIDS, 2015)

(酸化第二鉄)

dust: rat no death at 5.05mg/L (REACH登録情報, Access on Aug. 2019)

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

mist: rat LC50 >5.33mg/L/4hr (換算値) (SIDS, 2002; PATTY, 6th, 2012)

(エチレングリコール)

mist: rat LC50=2.7mg/L/4hr (PATTY 6th, 2012)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

vapor: rat LC50=450ppm/4hr (SIDS, 2007)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[成分データ]

(エチレングリコール)

ヒト 刺激性 (SIDS, 2009)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

ラビット 刺激性 (SIDS, 2006)

(アンモニア水)

ラビット 腐食性 (SIDS, 2008)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[成分データ]

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

ラビット 軽度から中等度の刺激性 (SIDS, 2002; PATTY 6th, 2012); 軽度の刺激性 (ECHA登録情報, Access on Dec. 2017)

(エチレングリコール)

ラビット 軽微な結膜刺激 (CICAD 45, 2002)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

ラビット (OECD TG405, GLP) 21日後に回復 (ECETOC TR95, 2005)

(エタノール)

ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998 et al)

(アンモニア水)

腐食性 (SIDS, 2008)

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[製品]

区分 1A, 発がんのおそれ

[成分データ]

(酸化チタン(IV))

cat.2; IARC Gr. 2B (IARC 93, 2010 et al.)

(カーボンブラック)

cat.2; IARC Gr. 2B (IARC 93, 2010 et al.)

(エタノール)

cat.1A; (IARC, 2010)

[IARC]

(酸化チタン(IV))

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(酸化第二鉄)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(カーボンブラック)

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(エタノール)

Group 1 : ヒトに対して発がん性がある

[ACGIH]

(酸化チタン(IV))

A3(as Finescale particles)(2021) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(酸化第二鉄)

A4(2006) : ヒト発がん性因子として分類できない

(カーボンブラック)

A3(2011) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(エチレングリコール)

A4(2017) : ヒト発がん性因子として分類できない

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

A3(2003): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明
(エタノール)

A3(2009): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明
生殖毒性

[成分データ]

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

cat. 2; rat : SIDS, 2006

(エタノール)

cat. 1A; human : PATTY 6th, 2012

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[成分データ]

[区分1]

(酸化第二鉄)

呼吸器

[区分3(気道刺激性)]

(エチレングリコール)

気道刺激性

(エタノール)

気道刺激性

[区分3(麻酔作用)]

(エチレングリコール)

麻酔作用

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

麻酔作用

(エタノール)

麻酔作用

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[製品]

区分 2, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

[成分データ]

[区分1]

(酸化チタン(IV))

呼吸器

(酸化第二鉄)

呼吸器

(カーボンブラック)

呼吸器

誤えん有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

(酸化チタン(IV))

甲殻類 (オオミジンコ) EL50 > 100mg/L/48hr (SIDS, 2015)

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

藻類 (Selenastrum capricornutum) EC50 (面積法)=18.4mg/L/72hr (OECD SIDS, 1994)

(カーボンブラック)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50 >5600mg/L/24hr (SIDS, 2007)

(エチレングリコール)

魚類 (メダカ) LC50 > 100mg/L/96hr (環境省生態影響試験, 2001)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

魚類 (シープスヘッドミノー) LC50=116mg/L/96hr (環境省リスク評価第6巻, 2008、他)
(エタノール)

藻類 (クロレラ) EC50=1000mg/L/96hr (SIDS, 2005)
(アンモニア水)

魚類 (ニジマス) LC50=26.8mg/L/96hr (水酸化アンモニウム換算値。被験物質: NH₄Cl, pH: 8.29)
(Thurston et al., 1981)

水生環境有害性 長期(慢性)

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

藻類 (Selenastrum capricornutum) NOEC (面積法)=3.28mg/L/72hr (OECD SIDS, 1994)
(エチレングリコール)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) MATC=4.2mg/L/7days (環境省リスク評価第3巻, 2004)
(エタノール)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属) NOEC=9.6mg/L/10days (SIDS, 2005)
(アンモニア水)

甲殻類 (ミシッドシュリンプ) NOEC=7.1mg/L/32days (水酸化アンモニウム換算値。被験物質: NH₄Cl, pH: 7.92-8.01) (SIDS, 2007)

水溶解度

(酸化チタン(IV))

溶けない (ICSC, 2002)

(酸化第二鉄)

溶けない (ICSC, 2004)

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

2 g/100 ml (ICSC, 2003)

(C.I. ピグメントブルー 15)

溶けない (ICSC, 2006)

(カーボンブラック)

溶けない (ICSC, 2010)

(エチレングリコール)

100 g/100 ml (PHYSPROP_DB, 2005)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

混和する (ICSC, 2003)

(エタノール)

混和する (ICSC, 2000)

(アンモニア水)

混和する (ICSC, 1995)

残留性・分解性

[成分データ]

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

急速分解性あり (BIOWIN)

(エチレングリコール)

急速分解性あり (BOD分解度=90%/14days, 既存点検, 1988)

(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)

BODによる分解度: 96% (既存点検)

(エタノール)

急速分解性あり (BODによる分解度: 89% (既存点検, 1993))

(アンモニア水)

急速分解性あり (水生環境中で速やかに硝化される(SIDS, 2007))

生体蓄積性

[成分データ]

(2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート)

log Pow=3 (SRC PHYSPROP DB, 2017)

(C.I. ピグメントブルー 15)

log Pow=6.6 (calc.) (ICSC, 2006)

(エチレングリコール)

log Pow=-1.93 (ICSC, 1999)
(エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル)
log Pow=0.83 (PHYSPROP DB, 2005)
(エタノール)
log Pow=-0.32 (ICSC, 2000)
(アンモニア水)
log Kow=-2.66 (PhysProp Database)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

その他情報

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。

特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

環境有害性

海洋汚染物質（該当/非該当）：非該当

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

酸化チタン(IV); 酸化第二鉄; C.I. ピグメントブルー 15; カーボンブラック; エタノール;

2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート(令和8年4月1日施行)

名称通知危険/有害物

酸化チタン(IV); 酸化第二鉄; C.I. ピグメントブルー 15; カーボンブラック; エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル; エタノール; アンモニア水;

2,2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタジオールモノイソブチレート(令和8年4月1日施行)

化学物質管理促進(PRTR)法

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

エチレングリコール; エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル

悪臭防止法

アンモニア水

大気汚染防止法

揮発性有機化合物(VOC) 法第2条第4項

エチレングリコール; エチレングリコールモノ-n-ブチルエーテル; エタノール

有害大気汚染物質

C.I. ピグメントブルー 15

特定物質 政令第10条第1号から第28号

アンモニア水

水質汚濁防止法

有害物質

アンモニア水

指定物質

酸化第二鉄; 水酸化鉄(III); C.I. ピグメントブルー 15

16. その他の情報

参考文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)
IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)
Supplier's data/information
Hazard Communication Standard - 2012 (29 CFR 1910.1200)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は、現時点における日本公表データ及び一般社団法人日本塗料工業会自主基準です。